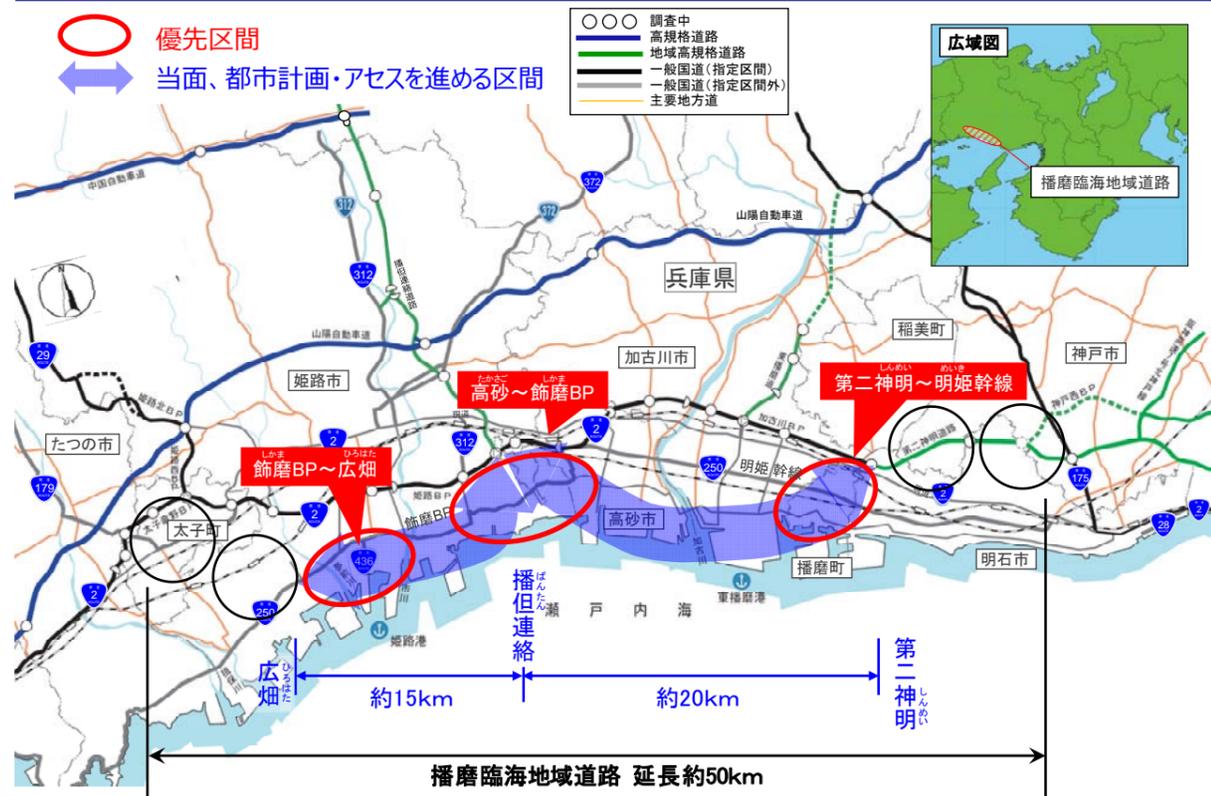


播磨臨海地域道路



地域の意見聴取を実施 平成30年2月



高砂市役所



別府駅(加古川市)



土山駅(播磨町・明石市)



別所PA(姫路市)

要望書

「はりまの成長なくして日本の成長なし」

播磨臨海地域道路の早期実現を！



日交通量9万台！
渋滞が慢性化する加古川バイパス



播磨臨海地域は
世界のものづくり拠点



日本最大のクルーズ船「飛鳥II」寄港
国際拠点港湾 姫路港



日本城郭の年間最多入城者286万人
世界文化遺産・国宝 姫路城

兵庫県

播磨臨海地域道路網協議会
播磨臨海地域道路網建設促進協議会
播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

要 望 書

平成30年5月19日

貴職におかれましては、平素から播磨臨海地域道路の計画推進につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

特に、昨年12月から本年2月にかけて、経済界や各業界団体、地域住民等への意見聴取を実施していただき、深く感謝申し上げます。

さて、播磨臨海地域は、日本を代表する多様な企業の製造拠点が集積し、多くのトップシェア製品を生み出している日本有数のものづくり拠点であります。平成27年の製造品出荷額は5兆7千億円を超え、さらに、ここ8年間の企業の設備投資は約2兆円にもなり、他の大都市をはるかに凌ぐ規模であります。

東西交通の要である国道2号バイパスは、昭和35年から、順次整備、供用が開始され、現在では事業着手当時と比較して、地域の製造品出荷額が約2.3倍、人口が約2倍に増加するなど、道路整備が絶大な「ストック効果」を発揮してまいりました。

一方で、地域の交通量は9倍に増加し、中でも、国道2号バイパスの交通量は9万台から12万台と交通容量の約2倍となっています。このため、慢性的な渋滞が発生し、物流機能の低下を招いています。

こうした課題を解消する播磨臨海地域道路は、「ひと」・「もの」の流れを抜本的に改善し、「生産性革命」を実現する道路であります。さらなる民間投資の喚起による安定した雇用の創出など、その実現はストック効果を最大限に発揮させ、将来にわたり当地域の自立・持続的発展に大きく寄与するものと考えています。

「はりまの成長なくして日本の成長なし」、日本の新たな「創造と成長」は、ここ播磨から始まるといっても過言ではなく、播磨の地域創生こそが日本の経済成長を力強く牽引するものと確信しています。そのためにも本道路の早期実現が不可欠であり、次の事項について格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 早期の「計画段階評価完了」と「都市計画決定等に向けた検討促進」
(第2回近畿地方小委員会の早期開催、検討促進のための合意形成の場の設置)
2. 早期完成に向けた国と県の役割分担による高い規格での整備
(播但連絡道路から東側を国、西側を県で整備)
3. 早期完成に向けた有料道路事業の導入検討
4. 播但連絡道路接続部の早期整備に向けた検討
5. 道路関係予算の総額確保

兵庫県知事

井戸敏三

播磨臨海地域道路網協議会

会長 姫路市長

石見利勝

副会長 加古川市長

岡田康裕

監事 明石市長

泉房穂

監事 高砂市長

登幸人

理事 稲美町長

古谷博

理事 播磨町長

清水ひろ子

理事 太子町長

服部千秋

神戸市長

久元喜造

播磨臨海地域道路網建設促進協議会

会長 姫路商工会議所会頭

齋木俊治郎

副会長 明石商工会議所会頭

平岡勝功

委員 加古川商工会議所会頭

釜谷和明

委員 高砂商工会議所会頭

森本幸吉

委員 稲美町商工会会長

廣田政文

委員 播磨町商工会会長

森田孝

委員 太子町商工会会長

高井國昭

播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

会長 兵庫県議会議員

釜谷研造

副会長 山本敏信 北条やすつぐ 竹内英明

事務局長 松本隆弘

理事 水田裕一郎 掘井健智

会員 原吉三 石井秀武 上野英一 藤本百男

岸本かずなお 北浜みどり 北口寛人 伊藤勝正

迎山志保 谷口俊介 山口晋平 松井重樹

天野文夫 吉岡たけし 樽谷彰人 岡つよし

戸井田ゆうすけ 五島壮一郎 住吉寛紀